

地域の防災訓練を活用した「実感できる」防災講座の実施事例

パシフィックコンサルタンツ株式会社	正会員	○桑原	正人
パシフィックコンサルタンツ株式会社	正会員	浅見	ユリ子
パシフィックコンサルタンツ株式会社	非会員	松田	尚郎
国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所	正会員	里村	真吾

1. はじめに

近年、上陸数が増加している台風や頻発する集中豪雨等により、災害の複合化・長期化・極端化等のおそれ全国各地で高まっている。また、人口減少や高齢化によって、地縁型のコミュニティが弱体化することが予想され、我が国の防災力低下が懸念される。大和川水系に目を向けると、近年の主な浸水実績は内水被害であり、大規模な外水氾濫を経験していないため、流域住民の洪水に対する危機意識が希薄になっていると考えられる。しかし、大和川の河川改修等のハード整備は十分な状況ではない上に、大和川が流れる大阪平野は水害ポテンシャルが高い「すり鉢状」の地形であること等から、沿川の地域防災力をより強化する必要がある。

本発表は、大和川河川事務所で開催している、地域の防災訓練を活用した「実感できる」防災講座の取り組みについて紹介し、さらなる地域防災力の強化に資するものである。

2. 「実感できる」防災講座の概要

(1) 防災講座の位置づけと特徴

住民の防災に関する行動のレベルを図-1のように類型化すると、地域防災力を強化し水害を軽減するには、各レベルに応じた取り組みを実施する必要があると考える。

また、地域で開催される防災訓練には、防災意識の高い住民が多く参加・見学に訪れている。防災訓練の多くは、時々刻々と訓練が進行する「メイン会場」と、関係機関等の取り組み紹介等の「展示会場」が設置されている。

本防災講座は、「展示会場」に河川管理者が展示ブースを出展し（写真-1）、ブースを訪れた「意識レベルの高い」参加・見学者を、自助・共助を「実践するレベル」に引き上げることをねらいとした取り組みである。

なお、防災講座の実施にあたっては、「ストーリー立てた解説」と「地先の洪水の危険性を実感できる」ことに留意した。

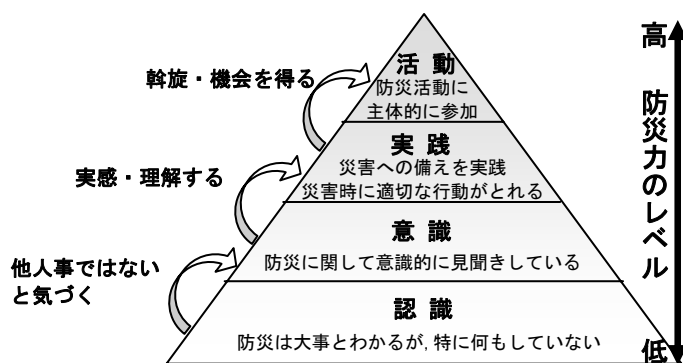


図-1 防災に関する行動レベルの類型化



写真-1 展示ブースの様子

(2) 防災講座のねらい

本防災講座では、次の①～③のねらいを卓上水理模型や河川管理者の取り組み状況のパネル等を用いてストーリー立てて解説することで「理解しやすく」し、内容も「実感できる」素材を用いることを目指した。

①ねらい1：洪水被害は自分事

地形的特徴や近年の気象状況から、全国で頻発している水害が他人事ではないことを認識する。

②ねらい2：わがまちの洪水の危険性を実感

自分の家の近くに潜む危険性、外水・内水はん濫の違いによる破壊力の違いを実感する。

③ねらい3：日頃から備えていざという時には行動

ハード・ソフト両面から日ごろの備えと緊急時の対応の必要性を理解し、減災に向けて実践する。

キーワード 地域防災力、防災講座、卓上水理模型、減災、地先の洪水の危険性

連絡先 〒541-0052 大阪市中央区安土町二丁目3番13号 パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社 TEL06-4964-2431

3. 「実感できる」防災講座の内容

(1)ねらい1：洪水被害は自分事

1)近年各地で多発する大規模災害

「豪雨の回数が増えていること」、「氾濫による浸水面積は減っても被害が甚大になっていること」等をまとめた展示パネルの解説を通して、河川整備で大和川の治水安全性は高まったが、極端化した気象によっては油断できないことを認識する。

2)大和川でも洪水は起きる

「大阪平野は水害ポテンシャルが高い、すり鉢状の地形であること(図-2)」、「平成19年7月出水でも大和川は危険な状況になったこと」等をまとめた展示パネルの解説を通して、大和川でも水害は他人事ではないことを認識する。

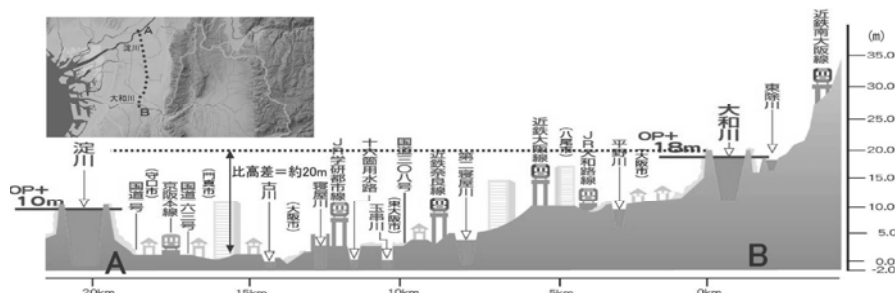


図-2 展示パネルの一例

(2)ねらい2：わがまちの洪水の危険性を実感

1)わがまちの想定浸水深

ある地点の堤防が決壊した場合の浸水区域図を、時系列で表現した展示パネルの解説を通して、防災訓練会場や自宅が、何時間後に何mぐらい浸水するのかを実感する。

2)卓上水理模型の実演(写真-2)

卓上水理模型(マイクロモデル)で表現した「まちなか」に「氾濫水」が広がる様子を体験することにより、「洪水が起こるとどのように危険なのか」、「外水氾濫、内水氾濫の違いやその威力」等を実感する。



写真-2 卓上水理模型の実演の様子

(3)ねらい3：日頃から備えていざという時には行動

1)大和川河川事務所のハード整備とソフト対応の取り組み状況

洪水による被害を軽減するために、河川改修等のハード整備を進めていることや、臨災時のみならず平常時から河川・防災情報の提供等のソフト対応を実施していることを学習する。

2)自らの命を守るための避難・防災情報の入手

洪水発生時に身の安全を確保するには早めの避難が重要であり、早期避難を可能にする情報の入手を実践できるように、河川管理者や自治体から発信されている様々な情報の入手方法や活用方法を学習する。

4. まとめ

防災講座を終えた際、「日頃から防災に対する意識を持つことが重要」、「氾濫現象は実感しにくいので、絵や図で見るより模型がわかりやすい」、「模型により河道掘削すれば水位が下がることが実感できた」等の声が聞かれた。これらの感想から、意識が高い住民にとって、防災講座の経験は有意義であったことが窺える。

5. 今後の展開

地域防災力の底上げには、最も大多数を占める「認識レベル」の人々のレベルアップが不可欠である。防災意識がそれほど高くない「認識レベル」から「意識レベル」へ底上げするためには、日常的に「まちなか」で目にとまるような位置に、「浸水情報」、「避難情報」を掲示する「まるごとまちごとハザードマップ」の整備を推進すること等が考えられる。

さらに、「実践レベル」から「活動レベル」に強化するためには、河川管理者・防災担当者を交えてリスクコミュニケーションを行い、地域防災力の強化方策とその役割分担等について議論すること等が考えられる。

参考文献

- ・DVD 日本に住むための必須！！防災知識 小学校低学年用,小学校高学年用 (社)土木学会 2005年6月
- ・DVD 日本に住むための必須！！防災知識 中学・高校・一般向け (社)土木学会 2006年7月